

和楽器の演奏を通して作る学校の伝統

——「ソウル太鼓」の誕生に関わって——

前ソウル日本人学校 教諭

神奈川県横浜市立岡村中学校 教諭 杉 山 宙

キーワード：ソウル太鼓，和楽器，学校の伝統

1. はじめに

2010年度、派遣初年のこと、私が派遣されたソウル日本人学校では、2010年9月に校舎移転という大プロジェクトを抱えていた。その新校舎開会式で日本文化紹介の出し物を指導する機会に恵まれた。出し物の内容は和太鼓と篠笛の合奏によるオリジナル曲『ソウル太鼓～海の名は明日～』（以下 ソウル太鼓と略す）の発表であった。そして「ソウル太鼓」を作ってもらったことをきっかけに、これを中学部の学部運営の一つの柱にしていきたい、という構想ができた。生徒たちが自分たちの学校・学部に誇りを持ち、そこから自分に自信を持っているような活動に取り組むことが出来るようにしていきたいと考えた。そこで開校式終了後も引き続き、演奏に関わった生徒たちを中心に有志による練習・公演等に活動を続けた。そして2012年、演奏に舞を加えることで、「ソウル太鼓」を中学部全体の取組とした。2010年から2012年の3年間をかけて「ソウル太鼓」を自分たちの伝統として大切に、後輩へと受け継いでいく土壌作りをした。その取組を紹介したい。

2. 取組の実際

(1) 2010年度 開校式まで

初年度は3年生だけに呼びかけをして、太鼓と篠笛それぞれ有志を募って取り組んだ（以降、この有志集団をお囃子隊と呼ぶ）。練習は主に休み時間に行った。ソウル日本人学校では日程の中に中休み（20分）・昼休み（20分）の長い休みがあったので、その時間を活用した。また学活・総合等で別メニューが可能な場合はその時間に練習を行った。太鼓指導を金原先生（静岡県より派遣）、篠笛指導を私が担当した。太鼓練習のメニュー・手順は

- ① バチさばきの基礎
- ② ソウル太鼓を繰り返し聞きリズムを覚える
- ③ 手だけでリズムを刻む
- ④ 太鼓で練習

であった。また、篠笛練習のメニュー・手順は

- ① 音だし（呂音の七か六 吹き方の練習）
- ② 練習曲：蛍こい（指うちの練習）
- ③ 練習曲：ひらいたひらいた（甲音2の練習）
- ④ 練習曲：さくら（甲音234, 0の練習）
- ⑤ 練習曲：こきりこ（7までの甲音の練習）
- ⑥ ソウル太鼓の曲練習

であった。練習のはじめの段階では教員主導で行った。太鼓も篠笛も教員が実演し、それを見ながら生徒も同じようにやってみる、という見取り練習を重ねる方法をとった。



開校記念式典での演奏の様子

(2) 開校式以降 2011年度まで

開校式以降、中学部として伝統にしていきたいという思いから、3学年全体に呼びかけ、太鼓・篠笛とも有志を募った。開校式以降は練習は休み時間のみとなった。また生徒リーダーが主導で練習を行い、ところどころ教

員が入ってチェックする形を作った。外部で発表する際のリハーサルのみ、総合的な学習の時間または部活の時間に練習を行った。その際は教員の配置を工夫して、担当教員がつけるように配慮した。休み時間の体育館割り当てもあったが、ソウル太鼓公演前の一定期間は中学部の練習を優先させてもらえるように全校的に配慮してもらった。

(3) 2012年度 舞を加えての取組

2010年度当時から構想にあった舞が完成した（宮城から派遣の後藤恵子先生の振り付けによる）。舞が加わったので中学部全員がお囃子隊か舞隊のどちらかに所属することにした。太鼓隊、篠笛隊（併せてお囃子隊）、舞隊のそれぞれにリーダーをおき、練習計画、推進、後輩の指導にあたるシステムを作った。中学部全員で取り組めるようになったため、練習時間を休み時間だけでなく総合的な学習の時間や部活の時間の一部を当てるようになった。自主的に伝統を引き継ぎ、新しい伝統を作っていくことへの感謝と誇りを常に意識させるような指導を行ってきた（ソウル太鼓の由来、作曲者の中島さんが自費で太鼓をソウルまで運んでくれたこと、などエピソードの伝承を行った）。

3. 公演の様子

ソウル太鼓の取組で要となるのが公演である。一生懸命練習し、人前で発表することで評価を頂き、それが生徒たちに誇りと自信を与えると考えている。ここでは3年間で特に指導上重要と考えられる公演を3つ取り上げて、準備から当日の様子までを紹介したい。

(1) 開校式での公演（2010年度）

この公演はソウル太鼓の取組のきっかけとなった取組である。2010年4月末、当時の教務主任の井上先生から、開校式ではバチホリックという和太鼓集団に来てもらって本校の生徒とセッションすること、そしてその際、本校のオリジナル曲がバチホリックからいただけるというお話があった。和太鼓と篠笛のオリジナル曲！これは強烈なインパクトであった。そしてそれから中3をメインに篠笛と太鼓の希望者を募り、修学旅行でのナザレ園（※1）交流をいい機会として練習を積み、まずナザレ園でおばあちゃん方に本校生徒による初めての和太鼓・篠笛の演奏を披露することが出来た（この時はこきりこ節を演奏）。そして7月、バチホリックからオリジナル曲「ソウル太鼓」が送られてきた。MIDI音源と楽譜を頼りに生徒とともに練習を開始した。開校式まで1ヶ月となる9月9日閉校式前日の午後、バチホリックの中島さん（作曲者）に仕上がり状況をチェックしてもらったための録音を行った。しかしこのときは太鼓のリズムもばらけ気味で、篠笛の音が全くといってよいほど聞こえない状態であった。そこでマイクで音を拾うなどの工夫をすることにした。また校舎移転に伴う秋休みを利用して生徒たちには自主練習に励んでもらった。その甲斐あって音の出はだいぶ良好になってきた。そして開校式前日、バチホリックが来韓し、リハーサルが行われた。バチホリックとは初めての対面である。生徒たちの緊張した面持ちであった。しかし初対面のバチホリックのみなさんはとてもフレンドリーで場の雰囲気は一瞬で和んだ。そして演奏を聴いてもらった後の中島さんからのアドバイスは一言「みんな、楽しもうよ」、その一言で生徒たちは何かがフツ切れたようだった。次にバチホリックさんと一緒にやった演奏は全く違うものとなった。とても乗りの良いまさに本物の『ソウル太鼓』が生まれた瞬間であった。生徒たちは異口同音に「すげー」「楽しかった」と感想を言い合っていた。自分もそんな気持ちであった。明日の成功はもう約束されたような物であった。そして当日、予定通りとても良い演奏をすることができた。開校の喜びを来ていただいた来賓、保護者の方とともに全校で共有することが出来た最高の開校式となった。

(2) アジアネットワーク21（※2）展での公演（2011年度）

2011年9月、東京都からの依頼で、アジアネットワーク21展のアトラクション、南山韓屋村の野外ステージ

公演に出演できた。校外での初演であった。この公演では初めての野外公演、しかも音響なしでということ、これまで課題だった篠笛の音が聞こえないという問題を解決する必要に迫られた。そしてついにこれまで使っていなかった高音域を使った楽譜に変えることを決断した。出演が決まって以来2ヶ月余り、生徒たちとともに技術を高めるべく、練習の日々が続いた。徐々にだがどのパートも音が安定するようになってきた。そして臨んだアジアネットワーク21展、野外ステージでの初演奏はその後へ確実につながる良い出来となった。はじめて“まともな”演奏をすることができたステージであるとも言える。つまり篠笛も太鼓も音がすべて聞こえるということである。情けないことにまだそのレベルであった。しかし生徒たちの真摯な演奏はどんなに難があろうと確実に聴衆の心を打つものがあった。



アジアネットワーク展での演奏

(3) ABU (*3) レセプションでの公演 (2012年度)

2012年7月中旬、ソウルのNHK支局から「10月にソウルで行われるABU総会のNHK主催レセプションにゲスト出演をしてくれないか」という依頼があった。2012年度より新たに舞を加えて「ソウル太鼓」の完成版を作ろうとしていた矢先のことだった。このレセプションでぜひこの舞のついた『ソウル太鼓』の完成版を初披露したいと職員・生徒とも一丸となって練習に取り組んだ。8月末の2学期開始からレセプション当日まではまさに産みの苦しみであった。とにかく練習しかない、しかし時間は限られている。本校では夏休みが終わると一気に運動会モードに突入する。この年も運動会は9月15日(土)の開催で、夏休み明けてから4週間ほどでの開催であった。中学部では毎年男子は組体操、女子は創作ダンスに学部を挙げて取り組んでいる。毎回の保健体育の授業だけでなく部活や総合的な学習の時間、学活などすべての時間を使って練習に励むのが恒例である。しかしこの年はそれにプラスして『ソウル太鼓』の舞に取り組む必要があった。本当に時間との戦い、そして生徒たちの気持ちをいかに高めていくかということとの戦いであった。10月9日(火)には何とかリハーサルとして全編を通すことが出来るようになっていた。舞も一応全員が振り付けを覚え、手先をそろえたり、タイミングを合わせたりする練習までこぎ着けていた。しかしもう一歩何かが足りない。それは気持ちの部分だ。生徒たちから“やる気”がもう一つ見えてこない。こんなに練習をしているのに、だ。ところがここでも開校式の再来があった。それは当日の最終リハーサル、本番の会場でのことだ。日本からNHKのレセプション担当者であり、当日のMC担当でもある海野さんが来韓してはじめて生徒や私たち職員と顔合わせをした。そしてまずその場で1回通すことに。そして通しが終わって海野さんから「本当にみなさんの演奏は素晴らしい！本番とても楽しみにしています。絶対成功しますよ」といった投げかけがあった。そして本番、生徒たちの顔は違っていた。本番終了後の海野さんの言葉は忘れられない。「生徒さん達はすごいですね。リハーサル以上の物を出せることって本当になんですよ。でも間違いなく本番の方がぜんぜんリハーサルより良かったです。リハーサルも良いと思ったけれど本番では生徒さんの額に流れる汗を見て感動しました。」この言葉にすべてが集約されている。こうしてNHKのレセプションは無事終了した。



NHKレセプションでの演奏

4. おわりに

派遣初年度の開校式をきっかけに期せずして学校の伝統作りとも言える取組に関わることが出来た。派遣された時にはなかったものが3年後には生徒自らがリーダーとなり引き継いでいこうとするソウル日本人学校の伝統「ソウル太鼓」が生まれていた。もちろん私だけの力では決して出来ない、学校をあげてのバックアップがあってこそその取組であった。海外で暮らす生徒たちが和楽器に魅力を感じ、オリジナル曲に誇りを感じ、1つの伝統ができた。開校50周年の式典でこの「ソウル太鼓」の演奏を聴くことができたらと願ってやまない。

- ※1 韓国の福祉家金龍成氏により設立された日本人妻のための養護施設。
- ※2 国という枠を越え、アジアの大都市が共通の課題に取り組み、アジア地域の繁栄と発展につなげていく目的で結成された組織
- ※3 アジア放送連合の略称。現在は韓国のKBSが会長をしているが長年NHKが会長を務めており、総会の後には必ずNHK主催のレセプションを行っている。